

船舶被害(第4図の(6))

- (1) 上陸地点付近での被害高がわりあい大きい。
- (2) 被害高は右側地域で特に大きく、左側の約2倍に達している。
- (3) 被害発生距離の限界は右側で600km, 左側で300~400kmとなっている。
- (4) 分布の様相は人的被害とよく似ている。

4. 災害の経路別特徴

被災率, 災害地域, 来襲季節及び台風の規模別の平均被害高を経路別に統計すると第2表の結果が得られた。

5. むすび

台風災害の規模と災害高の分布などについて, 全国的

視野から, それらの一般的傾向を述べたが, さらに局地的に, また時間的に災害のおこり方を究明して, 気象注警報を発表する場合の資料として役立てたいと思う。

いつもご指導をいただく藤田技術部長, 正務調査課長に深謝します。

参考文献

- 1) 3) 4) 船津康二, 1959: 台風災害について, 天気, 9, 117~125
- 2) 高橋浩一郎, 1954: 日本の風水害について, 予報研究ノート, 5, 312~340
- 5) 東京管区異常気象報告, 1961: 2, 3, p. 42.

理 事 会 便 り

第10回 常任理事会議事録

日 時 昭和38年4月1日(月) 17.00~20.00
 場 所 神田学士会館
 出席者 岸保, 有住, 松本, 増田, 須田, 吉武, 村上
 今井, 淵各理事(順序不同)

春の総会を東京で開くことも考える。

7. 春季大会の座長を次のとおりお願いする。

大会(研究発表)座長

第1会場

第2会場

15日	午前	松本 誠一	藤田 敏夫
	午後	坂田 初太郎	関原 暈
		山元 竜三郎	林 英之介
16日	午前	竹内 清秀	駒林 誠
	午後	伊東 直次	樋口 敬二
17日	午前	有住 直介	大竹 武
	午後	岸保 勘三郎	小野 晃
		沢田 竜吉	藤原 美幸

決 議

- 1. 春季大会の行事として次のものを加える。
 - イ. 15日第1会場 12.30~13.00黒岩氏の帰朝談
 - ロ. 17日 // // 数値予報関係の映画(気象庁, U.C.L.A. J.N.W.P)
- 2. 役員の勤務地移動のため次のとおりとする。
 - イ. 関西地区の大谷理事の後任は定款第19条により次点の山元竜三郎氏にお願いする。
 - ロ. 北海道地区の山岡理事の後任は次点なきため選挙を行なう。
 - ハ. 北岡監事から辞任の申出があり, 次点の伊藤宏氏にお願いする。
- 3. 講演企画委員の大井正一氏が外国出張のため後任として奥山巖氏にお願いする。
- 4. 国際雲物理会議に関する件を春の総会に提出する。
- 5. 徐長望氏の追悼記事を田辺氏に依頼して「天気」にのせる。
- 6. 来年度の当番支部は九州であるが, 支部と協議して